

第2回堺市美原区政策会議 要点記録

日時 令和6年12月12日（木）

午後7時00分～9時04分

場所 美原区役所 5階 大会議室

（午後7時00分 開会）

○石野企画総務課 定刻となりましたので、令和6年度第2回堺市美原区政策会議を開催いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、美原区役所企画総務課の石野です。どうぞよろしくお願いいたします。着座で失礼いたします。

本日の会議は21時終了予定となりますので、ご承知おきください。

それでは資料の確認をお願いします。まず、次第です。資料1「防災マップ」、資料2「堺市総合防災センター」、資料3「堺市・美原町合併20周年の取組について」、以上4点となっております。

本日の会議は、15名の構成員が御出席しております。なお、高岡裕子構成員、豊岡構成員、中田構成員、伯井構成員、宮本構成員、山本構成員につきましては、事前に所用のため御欠席との連絡をいただいております。

この会議は公開で実施いたします。本日の傍聴者数は1名です。

また、会議録や会議資料は堺市ホームページへの掲載、市政情報コーナーへの配架などにより公開いたします。事務局で録音と写真撮影をさせていただきます。写真についてはSNS等で活用させていただきますので、御了承いただきたいと思います。

次に、美原区長の小川から御挨拶がございます。

○小川区長 皆様こんばんは。美原区長の小川でございます。

構成員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、堺市美原区政策会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。皆様には日頃から堺市政及び美原区政全般にわたりまして、格別の御支援、御協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

また、11月3日に開催した、みはら区民まつりでは、ブースの出展やまつりの運営サポートスタッフなど、ここにいらっしゃる団体様から、たくさんの方に御協力いただきました。この場をお借りいたしまして、重ねてお礼申し上げます。

さて、この区政策会議は区の実情や特性に応じた政策形成を進め、特色ある区行政の実現を図るため、区民参画と区長の政策立案を支える行政運営上の会合として、設置しております。

「美原区ビジョン2025」では、「安全・安心に暮らせる」、「魅力的で訪れたくなる」、「やってみたいが実現できる」の3つの基本方針を定めています。

以前、会議の中で、若い方からの意見を聞いてみたいというお声をいただき、このたび、東構成員から美原高等学校で防災を取りあげた授業に、区政策会議の構成員の方にも、こどもたちのために御協力をいただきたいとのご提案がありました。

1995年（平成7年）の阪神・淡路大震災をはじめ、今年1月には能登半島地震が発生し甚大な被害を受けております。今世紀半ばまでには、南海トラフ地震などの巨大地震が発生する可能性が極めて高いと言われています。災害による被害を最小限に抑えるためには、災害発生前からみんなでつながり、いざというときに自助・共助・公助が連携して機能することが重要であり、日頃から災害に対する正しい知識と備えが大切です。以上のことから、テーマを「みんなで取り組む防災・減災」といたしまして、構成員の皆様から広く御意見を頂戴し、施策を進める上で参考とさせていただきたいと考えております。

そのほか、合併20周年の取組の御報告など、内容が多く、皆様方におかれましては、円滑な会議運営に御協力をお願いいたします。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○石野企画総務課 ありがとうございました。

それでは、事務局から3点報告事項がございます。

まず1点目ですが、令和6年度第1回堺市美原区政策会議で議論いただきました件について、途中経過を報告させていただきます。

美原区民意識調査について、9月末に無作為抽出した区民2,500名を対象に調査票を発送し、10月末締めで回答を締め切りました。回答者数は、約1,220弱で、統計学上、必要とされる回答数を満たしています。現在、集計中であり、次回の会議で皆様に報告できる予定となっております。

2点目ですが、皆さんが行うイベント等で各構成員さんに参加いただきたいと御案内したイベント等の感想について、当日参加した構成員の方から報告をお願いしたいと思います。

まずは12月8日に農芸高校で行われた、「みっかつ」～MIHARA活性化プロジェクト～活動報告会・トークセッション・収穫感謝祭について、松本構成員から一言お願いします。

○松本構成員 今御紹介いただきました、「みっかつ」～MIHARA活性化プロジェクト～の最終報告会を、12月8日に農芸高校にて実施させていただきました。本取組は、農業や食をテーマに、田植えから稲刈り、そしてカモの屠殺解体、食事をするところを一貫して提供するプログラムになっており、高校生がいろいろ活動しておりましたので、そちらの報告を行わせていただきました。

また、トークセッションでは、持続可能な自立したまちづくりについて考えるということで、様々なパネリストの方をお呼びし、トークを行ったところでございます。

お子様も合わせると大体60名、70名ぐらいの方に御参加いただき、無事開催すること

ができました。次年度も続けていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

以上です。

○石野企画総務課 松本構成員、ありがとうございました。

続きまして、12月7日に堺市総合防災センターで行われました、令和6年度美原区自主防災連絡協議会防災講習会について、同協議会会長である、田中副座長から一言お願いします。

○田中副座長 報告させていただきます。

12月7日に美原区自主防災連絡協議会の防災講習会を行い、構成員の皆様にも案内を差し上げ、参加いただいた方々に、お礼申し上げたいと思います。

当日は約5、60名の方が参加されたと思いますが、多種多様な訓練を行いました。この美原区自主防災連絡協議会という名前を御存知ない方もおられると思いますけれども、後ほど、自治推進課から説明があると思いますので、そのことは省かせていただきます。

冒頭、区長からもございましたが、私どもの近所で起こった阪神淡路大震災ですが、来月でちょうど30年になります。30年経ちますと、どうしても記憶から薄れていくものでございますが、11月に自治連合協議会の研修で淡路島に行ってまいりました。そして、語り部の方のお話を聞き、大変心に響いたところでございます。お話を聞いて当時の凄まじい被害の状況が記憶に戻ってまいりました。

確かあの時はかなり多くの方が近所の方に助けられたというデータがあったと思います。先ほど南海トラフ地震について区長からお話がございましたが、発生確率が年々上がってきており、そういうときに我々どうすれば良いかといいますと、やはり地域の中で人と人とのつながりを大切にすることと、人の記憶は薄れていくものでございますので、繰り返しの訓練が必要かと思います。

美原区でも、来年1月から3月にかけて、小学校の3、4校区で、自主防災組織による訓練が、予定されています。ぜひ御参加いただきたいと思います。

以上でございます。

○石野企画総務課 田中副座長ありがとうございました。

続きまして、11月3日に堺市総合防災センターで行われました、第20回みはら区民まつりについて、みはら区民まつり実行委員会会長の田中副座長お願いしたいと思います。

○田中副座長 続けて、失礼いたします。今御紹介いただきましたように、今年はみはら区民まつりの20回目でもございますし、来年の2月が、堺市美原町合併20周年という節目でございますので、地域の皆様方が20年間を振り返るとともに、美原区の将来に想いを馳せて、より愛着と魅力を感じていただけますよう、従来の模擬店やステージプログラムに加え、合併20周年の特別企画としまして、美原地車連合会によります、だんじりの展示やパ

パフォーマンスを行いました。そして近隣の大型商業施設でございますビバモールや、ららぽーとからも御支援いただきました。

今回は合併20周年ということで、従来のステージはアルテベルで、模擬店も区役所周囲で行っていましたが、今回は防災センターをお借りしまして、一体感を持った区民まつりができたと思っており、大変多くの方に、好評をいただいております。

そして防災センターを会場としましたので、防災の関連コーナーも設けました。そういう意味で、防災センターにまだ来ておられない方、初めての方もおられたと思いますが、防災センターで地震の体験やパネル展示を御覧いただき、今日のテーマの防災意識の向上につながったのではないかと考えております。

前日は大雨警報が出ましたが、当日はおかげさまで、大変良い天気にも恵まれ、約1万3,000人の方が来場されました。また「健康のつどい」も同時に開催しましたが、そちらにも3,000人ほどの方が来られました。大変盛会となりまして、この場をお借りし、お礼申し上げたいと思います。

簡単でございますが、報告といたします。

○石野企画総務課 田中副座長ありがとうございました。

これからも、皆さんが参加いただけるようなイベント等がございましたら、事務局へお知らせいただきたいと思います。

次に、3点目ですが、今回の案件である防災を取りあげるきっかけとなりました、美原高等学校の総合的な探究の時間について、東構成員から一言お願いしたいと思います。

○東構成員 美原高校、東と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本校の総合的な探究の時間の取組についてですが、本校の生徒は比較的地域、地元から登校してくる生徒が多く、それに加えて比較的少し自分に自信がないなというふうな生徒も多くおります。

学校としましては、そのような生徒達に、少しでも自信をつけてほしい、また、自己肯定感を高めて何か自分が役に立つのだということを、知ってほしいと考えております。

どのようにすれば生徒たちの自己肯定感を高めることができるのか考えながら、この探究の時間をどのように進めていくのか検討してきました。

ここにおられる松本構成員にも、御相談させていただき、今動き出している状態です。

今年1月に能登半島地震が起こり、日々様々な情報が出ておりました。その中で子ども達の地震、災害に対しての取組ですとか、必要性、そういうものも漏れ聞こえてくるところがあり、本校の担当者が、防災や減災などをテーマにして、生徒達が地域でどのように頑張れるか、また、どのように地域の人たちと手をつないで頑張っていけるか、自分たちで考えさせていったらどうかという話が出てまいりました。

それに伴い、区役所や防災センターに協力の依頼をさせていただき、今回御快諾いただき、

このような運びになっております。

今回のテーマとして取り上げている、「避難所を運営せよ」「72時間生き延びる手段を考えよう」は本校の担当教員が考えたものですが、それぞれ皆さんの御意見もいただきながら、本校の生徒の意見も集約し、少しでも良いものができていければと思っております。

様々な取組が混ざり合って、少しでもこの美原区が今後よりよい住みやすいまちになっていけば良いと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○石野企画総務課 東構成員、どうもありがとうございました。

ここからは、堺市美原区政策会議開催要綱7（2）の規定に基づきまして、堀内座長に進行をお願いしたいと思います。

では、堀内座長、議事進行をお願いいたします。

○堀内座長 堀内です、よろしくお願いいたします。

皆様には円滑な議事の進行に御協力をお願いいたします。

では、まず案件1「みんなで取り組む防災・減災」についてです。それでは、本日の会議の流れを事務局からお願いいたします。

○北口企画総務課課長 美原区役所企画総務課課長の北口です。よろしくお願いいたします。

本日の案件の流れを説明させていただきます。まず、本日、会議は午後9時までには終わりたいと思っておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

まずは、美原高校の防災の授業内容と視察について、この後、御説明いたします。

次に、美原区役所自治推進課から、「美原区自主防災連絡協議会の取組」について、10分程度説明させていただきます。

その後、堺市総合防災センターから、「堺市総合防災センター（非常時・平常時）の取組、最新の防災・減災情報について」、15分程度説明いたします。

次に、席に座っていただいている2つのグループで、グループワークを行っていただきます。グループワークのテーマは、先ほど東構成員がおっしゃっていました2つのテーマで、それぞれ割り振らせていただいております。大きくテーマは「美原区の防災・減災」についてです。それについて、意見交換、意見集約、グループ発表を約1時間かけてお願いします。

ちなみに、2つのテーマは、美原高校の取組と同じものでございます。同じ取組をする狙いとしては、構成員の皆様の意見と、高校生の意見を、次回第3回の会議で比較して、若者の意見や考え方などを把握することで、そこから何か見えてくることがあれば面白いということで、設定させていただきました。グループワークは後ほど詳しく説明させていただきます。

以上で、本日の案件の流れを説明させていただきました。ありがとうございます。

○堀内座長 ありがとうございます。では、最初に美原高校への視察について、事務局から説明をお願いします。

○北口企画総務課課長 美原高校の「総合的な探究について」簡単に説明させていただきます。先ほどの東構成員の発言と重なる部分があるかもしれませんがよろしくお願いします。

まず、探究の時間ですが、学生自らが課題を設定し、その解決に向けて、情報を収集・整理・分析したり、周囲の人々と意見交換・協働しながら、進めていく学習活動のことです。

今回、美原高校で取り上げる探究する課題については、主に美原区の防災・減災についてとなりました。よりみんなが安全・安心に暮らせる美原区になるために解決したいことについてとなっております。

テーマは、「避難所を運営せよ！」と、「72時間生き延びる手段を考えよ！」です。先日12月5日に、2年生を対象として、堺市総合防災センターと美原区役所から、テーマに沿って講義を行いました。これからテーマごとにグループをつくり、調べもの学習が始まります。

学習の進め方ですが、今後2月13日まで8回の授業で、解決策（アイデア）などを考え、解決に向けて仮説を立て、仮説に沿って情報収集や調査を高校生自らがを行い、結論を導いていきます。最後に文書やポスターにまとめ発表します。

この探究の時間に、構成員の皆様にもぜひ視察していただきたいと考えておりますが、参加できる人数に限りがありますので、事務局が美原高校と調整させていただきます。また、参加いただく構成員には、後日こちらから御案内を差し上げて、参加いただけたらと考えております。ちなみに、視察の予定日は、1月16日の木曜日、午後の授業となっております。

以上で、美原高校の視察について、説明させていただきました。

○堀内座長 ありがとうございます。事務局から説明がありました。これまでの会議で若者と意見交換したいとの話が、以前からあったと思います。参加人数に制限があるようですので、事務局と学校で調整していただき、本日の欠席者も含め、参加される方を決定したいと思います。後日、事務局から、連絡がありましたら、どうぞよろしくお願いいたします。

続いて、「美原区自主防災連絡協議会の取組について」説明があります。自治推進課からお願いいたします。

○金田自治推進課課長補佐 自治推進課課長補佐の金田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは私からは、美原区が行っている自主防災活動、特に美原区自主防災連絡協議会の取組について御紹介させていただきます。

まず本題に入ります前に、皆様に「自助」、「共助」、「公助」、この3つのおさらいをさせていただきます。一般に災害対策として、自分自身や家族で備える「自助」、地域で助け合う「共助」、行政が行う「公助」の3つがございます。災害の発生時には、それぞれが役割を理解して連携することが、とても重要となっております。その中でも「自助」と「共助」が、とても重要です。

それはなぜかという、5つの理由が挙げられます。まず、1つ目として、大規模災害では「公助」の機能が制限されます。次に2つ目として、適切な避難をしたこと。この行動によって3,000人の生徒児童が無事だったことが、東日本大震災のときに、釜石の奇跡と言われていますが、これは防災教育の成果だったということで言われています。3つ目として、阪神淡路大震災では、地域住民による救出が大部分でした。倒壊家屋からの救出では8割から9割を地域の住民の方が担ったと言われております。

4つ目として、家の耐震化は非常に防災効果が高いと言われています。

最後5つ目として、東日本の大震災以降、社会の絆を重視するようになったと言われております。

今日は時間の都合上、1と5だけ御説明させていただきます。

東日本の大震災では、地震や津波によって市町村長が亡くなったり、多くの職員が被災するなど、本来支援すべき行政自体が被災してしまい、行政機能が麻痺する事態となりました。また、消防では同時多発した火災の消火活動に追われて、全ての被害者の救出に対応することが困難になりました。これが「公助」の限界と呼ばれております。なお一般的に災害時の助けというのは、「自助」7割、「共助」2割、「公助」1割というふうに言われておりますが、災害の規模が大きくなればなるほど、「公助」の対応の力というのは小さくなっていき、「自助」、「共助」の重要性が増大すると言われております。

次に5番の社会の絆の説明に移ります。東日本大震災の後、社会の絆を重視する意識が高まったと言われております。内閣府の調査では、東日本の後の意識について、震災前と比べて社会における結びつき、これが大切だと思うようになったかというのを聞いたところ、前よりも大切だと思うようになったと答えた方が、79.6%にも上ったとのことです。

同じく内閣府の調査ですが、今後「自助」、「共助」、「公助」の対策で、重点を置くべき防災対策としては何か聞いたところ、平成14年と平成29年を比べると、24.9%の方が平成14年のときは「公助」が必要だと言われていましたが、平成29年になりますと、6.2%と大きく減少しました。その一方で、「自助」に重点を置くべきという方が39.8%、「共助」に重点を置くべきという方が24.5%と大きく増加しており、「自助」、「共助」による災害対応に重点を置くべきとの意識が強まっております。

これを受けて国では、「公助」の限界が明らかになったため、「公助」に加えて「自助」、「共助」によるソフトパワー、特に地域コミュニティにおける「共助」の重要性というのが、強く認識されたことを踏まえまして、地域コミュニティレベルでの防災活動を促進して、ボトムアップ型で地域防災力を高めていくために、2013年6月に災害対策基本法を改正し、地区の住民による自発的な防災活動に関する計画制度である地区防災計画制度が創設されました。

地区防災計画は、市からの指示ではなくて、地域の方などが自分たちで計画を決めるとい

うのが最大の特徴です。地区の実情に即した密着型の防災計画の作成を通じて、地域コミュニティの「共助」の意識を醸成させて、人材育成を進めることによって、総合的に地域の防災力を高めることが狙いとなっております。

ここからようやく本題ですが、それを受けて美原区では、平成18年度には、既に全ての校区で自主防災会が組織されておりましたが、東日本の大震災を受けまして、区役所はもちろんです、各地域でも地域防災力のハード、そしてソフトの両面の更なる強化が喫緊の課題ということで認識しました。

そして、平成23年、有事に備えた人材育成、各校区自主防災会同士の連携、区役所等行政機関との連携の更なる強化などを目的としまして、美原区自主防災連絡協議会が発足しました。

協議会として、まず取り組んだことは、各地域の単位自治会での自主防災の組織化です。自主防災組織とは、住民同士が協力して自発的につくる「共助」の組織であり、地域防災活動の拠点になります。自主防災組織が活発に活動していますと、いざというときに役立つだけでなく、まちの人々の安全安心な生活を支えることにもつながります。また、組織の活動を活発に行うことで、地域内の人々の交流が増え、自治会の活動も活発になり、まち全体が活性化していくことにも期待しております。

このことから、協議会では、平成24年度から単位自治会での自主防災組織の未結成の自治会に対して、結成を働きかけたり、既存で組織化されていた自治会に対しても、さらに活性化するための支援を行いました。この結果、ほとんどの自治会に自主防災組織が結成され、平成24年度に7割程度であったのが、現在97%の組織が結成されております。

協議会では人材育成にも力を入れており、区内の防災士を対象として防災のスキルアップのための講習会を、毎年開催しております。ちなみに美原区内の防災士は現在こちらが把握している方だけで、91名おられます。平成30年には、防災の講義として、兵庫県立大学の坂本准教授に、地域防災力の向上と地区防災計画制度についての講義、給水栓の組み立て、水コンテナの組み立ての訓練を実施いたしました。給水栓と水コンテナの組み立て訓練は、つい先日も実施しました。

令和元年は大阪木材工業団地にありますヤマトプロテック株式会社にご協力いただき、消火器に関する知識の習得及び使用訓練を実施しました。

令和2年は、新型コロナウイルス感染症が流行したため、震災時の避難所の在り方が、大きくクローズアップされましたので、3密回避のためのパーティションの組み立てや、また床に直接就寝しないことが重要とのことから、段ボールベッドの組み立て訓練も実施しました。

令和3年は、堺市総合防災センターが年度末にプレオープンをしたため、見学会を実施しました。この年から、会場を防災センターに移して実施しております。

令和4年は、倒壊した家屋から人を救出するための訓練とマンホールトイレ上屋の組み立て訓練を実施しました。マンホールトイレの組み立て訓練も先日実施しました。

昨年、令和5年は、胸骨圧迫やAEDを用いた心肺蘇生訓練、新聞紙などの身近なものを活用した圧迫止血などの応急処置訓練を実施しました。

そして、先ほど田中副座長からも御紹介がありましたが、今年度は12月7日にマンホールトイレ、水コンテナ、そしてびっくり蛇口の設置訓練を実施いたしました。

協議会では、ほかに人材育成の制度としまして、防災マイスターという制度を実施しております。これは防災講習会を受講していただき、より専門的な知識と防災技術を習得された方を認定するものとなっております。防災マイスターには地域の自主防災委員会で地域の防災リーダーとして御活動いただくほかに、違う校区にも出向いていただき、防災訓練での指導や補助を行っていただいております。

そのほか各校区による地区防災計画の策定に向けた支援にも取り組んでおります。この事業で既に4校区が策定済みで、現在は美原北校区が取り込まれている最中です。

また今年度から美原区の強みである、自治会の加入率が高いこと、住民同士のつながりが強いこと、そして各自治会に強固な会館があることを活かした事業に取り組んでいます。住民の皆様にとって身近な集会所、これらの施設を災害発生時の一時避難所として利活用可能な環境とする取組が有効ではないかという観点から、御覧のような地域の実情に応じて防災資機材を整備して、それを用いた訓練を行っていくこととしております。今年度は黒山校区と平尾校区で整備を行いました。

最後になりますが、自治推進課からの宣伝となります。当課では「災害に備えて」をテーマとした講座を実施しております。地震、風水害などの災害に備えて、日頃からの備えや自らの安全を守る方法、地域における防災への取組の必要性などについてお話をするものです。各单位自治会や自主防災会だけでなく、任意のグループ、先日の美原高校での授業などにも対応できますので御関心がありましたら御連絡ください。

自治推進課からは以上となります。御清聴ありがとうございました。

○堀内座長 ありがとうございました。次に堺市総合防災センターから、センター（非常時・平常時）の取組、最新の防災・減災情報について、説明をお願いします。

○岡本参事総合防災センター こんにちは。堺市総合防災センターから参りました岡本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、堺市総合防災センターの非常時、平常時の取組、最新の防災減災情報についてお話をさせていただきます。

堺市総合防災センターは、令和4年4月1日に正式に開設をいたしました。今年で3年目を迎える施設です。市民の皆様に御活用いただいておりますのは、防災啓発施設となっております。当センターは、全国的にも珍しく、消防隊の訓練施設とも併設をしております。こ

の夏は近畿地区指導会という、いわゆるレスキュー隊員の近畿大会がこの防災センターで初めて開催をしました。たくさんの方に御来場いただきました。そのときに美原高校にも、選手の控えの場所として、大変お世話になりました。

施設の利用状況ですが、オープン以来、年間来場者数5万人を目標に取り組んできましたが、ありがたいことに、令和5年度の時点で5万人を突破いたしました。そして今年度ですが、11月30日現在で、既に4万人を超えております。

小学校には、堺市の半数以上の学校に御利用いただいておりますが、中学校、高校となると、御利用の数が減っていております。今回美原高校と一緒にさせていただけるというのは、とても施設としてはありがたいと思っております。また、最近企業研修でもよくご活用いただいております、昨年度と比べてかなり件数が増えています。

来館者の推移ですが、体験コースについては、大体どの月も同じぐらいの人数で推移をしている状況ですが、1月、2月、4月というのは、御利用が少ない月となっており、予約が大変取りやすくなっておりますので、御活用いただけたらと思っております。

私どものイチオシのコースが、真体験コースで約90分のコースになっておりまして、消火体験も実際の火を使って、水消火器で消火訓練していただいたり、煙・暗闇体験も真っ暗になった状態で、煙を吸わないよう低い姿勢で非難することや、誘導灯、非常電源の大切さについて学ぶことができます。

応急救護も、小学校の場合は車両見学などに変えさせていただいたりしますが、中学生以上の方には、応急救護を体験していただいております。

真体験コースも既に体験済みの方たちのために、水害コースや、火災コースなど、それ以外のコースも充実させております。基本的には小学生以上を対象にしておりますので、未就学のお子様にはキッズコースというコースを御案内しております。

利用者の満足度アンケートの調査では、多くの方に「とてもよかった」と回答していただけており、私どもの励みになっております。内容としては、「学習の体験内容がよかった」、「担当者の対応、説明がよかった」と評価いただいております。

今までのお話が平常時のお話になりまして、次が非常時のお話になります。非常時には、円滑な支援体制の確立というのが、防災センターの大きな機能の1つとなっております。

今御紹介しましたこの建物内が、ガラッと景色が変わって、災害活動の指揮本部になるようなイメージです。大浜に堺市消防局の本部がありますが、南海トラフなどで、例えば庁舎が津波による大きなダメージを受けた場合や、119番通報が取れなくなった時など、速やかに、内陸のこの施設に消防本部機能を移転してまいります。あとは全国から緊急消防援助隊が集結す拠点にもなっております。

もう1つの機能としては、危機管理室が所管している部分になりますが、備蓄の倉庫がありまして、堺市の中では一番大きな物資搬送施設になります。堺市では避難所などに分散し

て備蓄が備わっていますが、まずはそこに対して防災センター等から備蓄品が送られます。また大阪府や、国からの物資の受け入れを防災センターで行い、それを避難所に配送するという重要な物資搬送拠点となっております。

防災センターなので、災害が起きたらここに逃げたらいいと、よく言われますが、先ほど申し上げたように重要な災害活動拠点になる施設になりますので、ここには一般の方が立ち入ることができませんと御案内をさせていただいております。これが堺市総合防災センターの非常時・平常時の機能となります。

最後に、意識の醸成ですが、東日本大震災が2011年に発生しました。これも南海トラフと同じで海溝型地震でした。東日本大震災が起こる2年前の2009年時点で、今後30年以内に地震が発生する確率が一番高かったのが、まさにその2011年に起きた宮城県沖の東日本大震災の震源地であり、その発生確率は99%と言われていました。

そして今度、南海トラフは、50年以内に90%。30年以内でも80%程度と予想されておりますので、必ず起きるということで、私どもも啓発をしております。令和6年8月に日向灘沖で発生した地震を契機に南海トラフ地震に対する注意喚起がありました。というのも南海トラフの一番端っこが日向灘沖であるため、そこで地震が起きたため、かなりピリッと日本中がしたというのは、記憶に新しいところです。今後も防災センターでは引き続き啓発等をしていきたいと思っております。

最新の防火防災に関する情報ということで、今回、皆様に知っていただきたいのが、感震ブレーカーです。最近この感震ブレーカーの普及推進に向けた会議というのが国で立ち上がって、話し合いが行われています。輪島市の大規模火災、皆様の記憶に新しいと思います。今回、火災の原因というのははっきりとは分からなかったそうですが、過去に起きた大震災でも火災が起きておりました。阪神淡路大震災で発生した火事のうち、電気が発生の原因になったとされておりますのが約61%。東日本大震災でも火災が起きた原因の約54%が電気火災であったと、過去の統計が出ております。

そこで、国は、地震火災対策の推進ということで、地域における火災予防の推進や、家具の転倒防止対策、耐震自動消火装置付きの火気設備、住宅用火災警報器などの設置、そして、防災訓練の推進を行っています。もう1つ、国が進めているのが、大規模地震等の電気火災対策として、感震ブレーカー等の普及推進であり、これからどんどん進めていきたいと考えているようです。

感震ブレーカーとは何かと言いますと、地震を感知すると自動的にブレーカーを落として電気を止める仕組みであり、新しいお家であれば、ブレーカーに既に備わっているものもあるみたいですが、比較的古い家であれば、そういうものが備わっていません。国としては、住宅から発生する、特に木造密集地等での火災発生を防ぐために、今取り組んでいるところで、皆様に情報提供させていただきました。

簡単ではありますが、防災センターからは、以上です。ありがとうございました。

○堀内座長 ありがとうございました。ここから、グループワークになります。ここまで区役所、自主防災連絡協議会、防災センター、3カ所から様々な情報があったと思います。これを参考にしつつ、御自身のふだんの生活を思い出しながら、グループワークを行っていたいただければと思います。

それでは、ここからのグループワークでは、美原高校が取り組むテーマごとにミッションを与えますので、テーマに沿って、意見交換していただき、最後にグループごとに発表をしていただきます。

グループワークの進行は、事務局でお願いいたします。

○北口企画総務課課長 私から説明させていただきます。

まず、ファシリテーターは、東構成員と浦構成員にお願いさせていただきました、よろしくをお願いいたします。ファシリテーターの皆様には、グループの意見のとりまとめ及び発表をお願いいたします。

東構成員のグループは、「避難所を運営せよ！」をお願いいたします。浦構成員には「72時間生き延びる手段を考えよ！」をお願いいたします。まず、グループで意見交換していただきます。時間はまとめ作業もいれて40分程度を予定しております。最後にグループごとに発表いただきます。

進め方としては、意見交換では、まず、課題抽出に10分程度を見込んでおります。その後、20分程度で課題解決のアイデア出しをしていただき、残り10分で意見をしてまとめてイメージでございます。例えば、「72時間生き延びる手段を考えよ！」では、ふだん生きるために、当たり前に入手に入るものが震災の際にはどうなるのかや、発災する時間帯や自分の居場所によって、様々なことが考えられると思います。それらを想像いただき、課題抽出を10分程度でお願いいたします。そして、残り20分で、その課題を解決するためのアイデアの検討をお願いします。

なお、御発言いただく際は、お手元の付箋に御記入いただき、模造紙に貼っていただきますようお願いいたします。最後にそれを見ながら、皆さんで模造紙の上で整理していただきまして、最後に発表いただくという形でお願いいたします。

また、タイムキーパーは事務局で行います。10分経過ごとに御案内を差し上げます。それでは、よろしくお願いいたします。

(グループ討議)

○北口企画総務課課長 そろそろお時間です。座長、進行をお願いいたします。

○堀内座長 では、これから2グループに発表していただきます。まず東構成員のグループ

からお願いします。

○東構成員 弱者への配慮が必要という意見が出ました。例えば、こどもに対する配慮、妊婦に対する配慮、こどもを持つ保護者への配慮が必要です。避難所に来る過程においての支援や、避難所生活での支援など、様々な支援が必要です。また、能登半島地震の時に問題になりましたが、ペットを連れて避難所に行けず、自分の車や家で生活していた方もおり、弱者への配慮をきちんとしなければいけないとの意見がでました。

次に最近、外国人の方も増加しており、そういった方々にどのように避難所の情報を周知徹底などしていけるかということでした。外国人の方に関しては、自治会の方も把握できていないという部分がありますので、例えば勤めておられる企業などと情報共有して連携することも必要ではないかという意見もありました。

そして、誰が避難所を運営するかということが非常に大きな課題で、地域のリーダーをきちんと決めておく、育てていくとことが1つ大きな課題であるとの意見がありました。例えば、自治会長だから全てお願いするのではなく、たくさんの人がきちんとサポートする。また、仮にリーダーがいたとしても、その人が必ず来ることができるかわかりません。もし来ることができなかった場合に、その避難所が全く機能しないということがあったら困りますので、できるだけたくさんの人で組織をつくって、誰が欠けてもきちんと運営できることが必要ではないかとの意見をいただきました。

他にも、女性目線でのご意見として、避難所でたくさんの人が集まると着替えもなかなかしにくいというところで、例えば海外の避難所では、個人用のテントがあるところもあり、個人スペースの確保だけではなくて着替えることも可能ですし、最低限の生活水準を保てるのではないかという意見がありました。ベッドに関しても、話が出ていました。

そして、日常の衣食住に関わることですが、食の部分では、水に関して、ペットボトルなどで用意されていると思いますが、それだけで保つのかどうか不透明な部分もあります。

そこで、美原区の中には井戸がたくさんあるようで、今現在放置されており、使えるかどうかかわからないものが多いとのこと。実際に使えるものであっても、検査がされていないので飲めない、使えないという状況です。ただ、それは果たして個人で検査をすべきものであるかどうか、実際に災害が起こったときにみんなで使うものであれば、個人に負担というのはあまりにも不公平じゃないかという意見がありました。せめて、生で飲めるのか、熱を通せば使えるのか、日頃から分かっておれば、いざというときにすぐに使えるのではないかという意見をいただきました。

熱源ですが、電気も止まり、ガスも当然止まるであろうというところで、昔からあるプロパンガスのようなものの準備が一定必要ではないかということがありました。もう1つは、最近ソーラーパネルをつけている御自宅がたくさんありますので、そういう御自宅に御協力をいただけないかとの意見がありました。

食に関しては、米を確保していただきたいという意見がありました。また、美原区ではどれぐらい備蓄されており、発災時にどれぐらいの人がそれで賄えるのかというところもはっきりさせておいた方が良いのではという意見がありました。

簡単ですが、以上です。

(拍手)

○浦構成員 こちらのグループでは、72時間生き延びる手段を考えようということで、話し合いました。まず災害が起きる前の段階で準備する意識を持って、常に災害のことを意識して行動することが、非常に大事だと意見がありました。ここで地震や災害が起こったときに、どのように対応するのか、非常口はどこにあるのかなど、様々なことに意識をしっかりと持つということが、まず前提として必要ではないかということでした。また、倒壊から身を守るためや家具の下敷きにならないように机の下に隠れるとか、意識や知識も必要ではないかという意見も出ておりました。

実際に災害が起こった後の72時間では、まず72時間生き延びようと思うと、一番多く出ていた意見が食料と水の確保というところでした。食料については様々な意見があり、解決策としては事前の準備を各自で行うということでした。加えて自治体でも準備をしっかりとしてもらうことでした。また、準備の仕方もいろいろあり、日頃から食べているものをうまく回しながら準備することも大事ではないかという意見も出ておりました。

先ほどの東構成員のグループでも出ておりましたが、美原区には井戸がいっぱいありますので、マップ化をしてもらい、飲み水や、一応使用できる水というような形で明示することも、非常に大事という意見も出ておりました。

あと、様々な意見がありましたが、やはり食の問題があれば、寝る問題の準備も大切かと思いますので、その辺の対策も必要だと思います。また、防寒や暑さ対策についても、非常に準備が必要ではないかと思います。

あと、病人の方の常備薬の準備、生理用品など、やはり日頃から準備しておくことが大事であるとの意見もありました。

そして、生き延びるためには、様々な準備も必要ですが、最終的には自分1人でできないこともたくさんありますので、コミュニティが非常に大事かと思えます。コミュニティでもいろいろありますが、日頃からの近所付き合いをしっかりとやっていくことが「共助」の部分になってくるのではないかと意見がありました。

例えば、こどもが2人いれば、保護者が1人で2人を抱えてなかなか逃げることはできません。そこを皆さんで協力できるように「共助」の部分が、非常に大事であるとまとまりました。

簡単ですが、以上です。

(拍手)

○堀内座長 ありがとうございました。今日は貴重な意見がたくさん出たと思います。今回、「避難所を運営せよ」「72時間生き延びる手段を考えよ」というテーマでお話いただきました。今日の会議の中で話を終わらせるのではなく、それぞれの職場の同僚や、御家族、御近所の方にも、今日、お話いただいて、また地域の中や職場の中で危機感であるとか、問題意識を共有していただければ、横に広がっていきます。それがいざというときに役に立つと思います。その上で美原高校の探究学習に生かしていただければと思っております。

改めて皆様お疲れさまです。

それでは、案件2、その他についてですが、特になしということです。

最後に、報告案件になります。堺市・美原町合併20周年の取組について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（平野） それでは堺市・美原町合併20周年の取組について報告します。スクリーンを御覧ください。また、お手元には資料3、堺市・美原町合併20年目を迎える取組一覧を用意しております。

令和7年2月1日に、堺市と美原町が合併して20年を迎えるにあたり、①美原区の歩みを改めて振り返る。②美原区への愛着を感じていただく。③区内外に魅力を発信する。の3つの視点を踏まえながら、前回の区政策会議で、皆様からいただいた意見を、事業にできるだけ反映して企画しました。

また、区自治連や区関係団体、大型商業施設、市関連施設などと連携して様々な取組を実施し、美原区の魅力を広くPRする機会としました。

お手元の資料は、約50事業ある取組の一覧表です。表の右側には、前回の区政策会議でいただいた御意見を載せています。本日はその御意見を反映させた取組の中から、主なものをピックアップしてスクリーンで説明します。

まず、前回の会議以後から、これまで実施したイベントについて説明します。お手元の資料では、記念イベント、7番目からの説明になります。

9月8日にビバモール美原南インターで「西前姉妹と楽しいJAZZの世界へ&パネル展」を実施しました。「美原区の歩みを振り返るため、写真などを作ってはどうか。」という御意見を反映し、美原の過去の写真をパネルにして展示しました。当日は、J-c o mの取材があり、コンサートやパネル展の様子がテレビでも放映されました。

続きまして、10月20日に「美原区古代米プロジェクト昔ながらの稲刈り体験イベント」や世界遺産課、MCみはらと連携して、「黒姫山古墳スタンプラリー」を開催し、古代米や黒姫山古墳を知っていただきました。

11月3日に防災をテーマに「第20回みはら区民まつり」を区自治連の皆様や区関係団体、大型商業施設、防災センターと連携実施し、たくさんの区民の方に来場いただきました。また、「芸能人はとても発信力があるので利用すべき」との意見を反映し、10年前に

“美原もん大使”として様々な行事に参加していただいたお笑いコンビの「見取り図」の告知動画や応援メッセージの音声などを流しました。

次に、これから実施予定のイベントですが、明日開催予定の「展望ロビークリスマスコンサート&パネル展」です。事前申し込みいただき、約50名が参加予定です。また明日から1月10日まで、美原区インスタフォトフェスティバルに投稿いただいた写真の展示を行います。人気投票を行い、後日、上位5作品をららぽーと堺や区役所1階のデジタルサイネージで放映します。なお、明日のコンサートは、構成員の皆様には御高覧いただけますので、参加可能な構成員は、会議終了後に事務局に申し出てください。

1月19日にアルテベルホールで、バラエティー番組「探偵！ナイトスクープ」でおなじみの桂二葉さんの独演会を行います。チケットの販売では完売ですが、プレゼントの募集は20日まで実施しております。現在100組の応募がありました。公演当日は、区長と桂二葉さんによる「堺市・美原町合併20周年記念トーク」が予定されています。

1月31日には、ららぽーと堺1階で、「みはら子育て応援フェス（inららぽーと堺）」を実施します。「子育て世帯が他の子育て世帯・支援者・子育て情報とつながる」をテーマに美原区子育て支援地域ネットワーク会議が主催するイベントです。

2月1日の合併記念日には、MCみはらで「大切なあなたに贈る音の花束～トリオで奏でる室内楽～&パネル展、関連イベント」を予定しています。

2月26日は、堺市・美原町合併20周年特別企画「（仮）歩いて学ぶ！みはらええトコ歴史ウォーク」を開催します。世界遺産課と連携し、美原の歴史を学びます。「歴史ツアーやハイキングを行っては」、「スタンプをもらうだけではなく、説明してもらう仕組みも必要」などの区政策会議での意見を反映した取組です。

次に、作成物です。作成物としましては、のぼり、車体マグネットシート、シールなどがあります。「のぼりを郵便局に掲示する」、「郵便車両に美原のロゴマークステッカーを貼って走る」、「合併20周年ロゴマークのシールを作成する」などの意見を反映したものです。シールは地域や学校でも活用いただいております。お手元にシールのサンプルをお配りしております。

次に、情報発信です。広報さかい美原区版の9月号、11月号、12月号、1月号のトップページや産経新聞の特集記事、区ホームページの特設サイトなどで情報発信に取り組んでおります。「媒体にかかわらず、情報を重層的に、何度も発信する」、「区民がSNSを活用し、美原区の魅力発信を行う」、「よい投稿は区民まつり等で表彰」、「20周年を起点にして新しいものをつくっていく。それが30年、40年というふうにつながっていくような取組をしたい」、「1回きりではなく、継続的な魅力発信」などの意見を反映しております。

最後に、地域の取組を紹介します。ロゴマークの活用です。チラシや表彰式、パネルに記

念ロゴマークを入れていただきました。１１月２３日に開催された美原西のつどいでは、記念ロゴマークの使用に加え、区長と自治推進課長とで、合併２０周年をテーマとして、講演が行われました。

民間事業者が合併２０周年を記念して、美原の古代米を使用した創作いなり寿司の商品開発やラベルに記念ロゴを印刷したスパークリング日本酒、無印良品イオンモール堺北花田で、「美原の古代米フェア」を開催し、ホームページに記念ロゴマークを使用していただくなど多岐にわたる取組がなされています。

以上で、事務局からの説明を終了します。

○堀内座長 ありがとうございました。事務局から報告ありました。

そのほかの皆さん、構成員の方の中で、合併２０周年を記念して取り組んだことや、取り組む予定などありましたら、御発表していただきたいと思います。いかがでしょうか。

湯井構成員に、「美原区古代米プロジェクト」での、取組を御報告いただいてもよろしいでしょうか。

○湯井構成員 美原区古代米プロダクツの湯井と申します。どうぞよろしくお願いします。

今年は美原の古代米の商品化が大きな出来事であり、美原区小平尾に「ごはんの時間」というお店で、堺市・美原町合併２０周年を記念して、美原の古代米を使ったいなり寿司が商品化されました。商品名は、「古代米のたくあん大葉いなり」と「古代米の芋栗なんきんいなり」となっております。みはら区民まつりや、北花田のイオンモールで開催された「美原の古代米フェア」にて販売されました。こどもから大人まで食べやすい大きさのいなり寿司です。

次に、阪南市に浪花酒造有限会社という酒造会社があり、こちらは創業３００年ほどの老舗で、ラベルに阪南市の商工会議所のイメージキャラクター「緑川さくら」ちゃんが登場し、合併２０周年のロゴを入れたスパークリング日本酒を販売していただく予定となっております。１２月の末ぐらいから販売される予定と聞いております。ただ、この商品は販売本数が１，３００ぐらいと少ないため、販売箇所については限られており蔵元の浪花酒造の直売と、阪南市のふるさと納税、あとはホームページでの販売ということです。ぜひ試飲してみたいと思われる方は、一度浪花酒造にご確認ください。また、ここで古代米の酒かすも取れるそうで、あずきバーのような色合いと聞いております。これについては、古代米プロダクツで販売できないか、現在検討中です。

そして、美原の古代米プロダクツで販売しております美原の古代米の商品につきましても、ラベルに合併２０周年のロゴをつけ、今年度のお米を販売しております。古代米の関連商品も併せて販売いただいております協力事業所が美原区内外にあり、毎週土曜日に開催されている美原朝市でも、古代米を販売しております。ぜひ皆さん手に取っていただき、美原の特産品として、また合併２０周年の広報にご協力いただければ幸いです。

以上です。

(拍手)

○堀内座長 ありがとうございます。では、本日の案件の報告は、これで全て終了いたしました。

事務局に引き継ぎたいと思います。お願いします。

○石野企画総務課 それでは、最後に区長から一言御挨拶させていただきます。

○小川区長 長時間にわたり、貴重な御意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。また堺市美原町合併20周年を様々な形で盛り上げてくださいます、本当に感謝しております。災害につきましては、いつ、どこで、どんな季節に起こるか予想できません。それぞれの必要なことを、いろいろ想定しておくことで、みんなで地域全体が生き延びられることに結び付けたいと思っております。

また、美原高校の探求の時間を視察させていただき、高校生の皆さんの御意見も、たくさん聞きたいと思っております。その際に、また新しい気付きになればと思っております。

本当に今日はありがとうございました。お疲れさまでした。

(拍手)

○石野企画総務課 以上をもちまして、令和6年度第2回堺市美原区政策会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。

(午後9時04分 閉会)